

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 なごみの家)

事業所番号	O673000519		
法人名	株式会社 互惠		
事業所名	グループホーム「ママ家」		
所在地	山形県鶴岡市常盤木字関口103番地3		
自己評価作成日	平成28年10月20日	開設年月日	平成15年 5月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1.介護職員が介護に専念できるよう、業務・調理等の業務を委託し、ゆったりと入居者と関われる様にしています。
 2.地域連携してのイベントに力を入れて、地域住民とともに地域の活性化に取り組んでいます。
 3.逐次記録システムを活用して入居者の様子を確実に記録し、それを生かした生活支援となるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

人として互いに認め合い、尊重し合い、人や社会のためとなることに喜びと幸せを感じ、感謝し合える生活環境作り常に取り組んでいます。その実現のために、看護師・夜勤専門介護員・業務員等の専門職を置き、ゆったりとした介護環境の中で充実した支援に努めています。職員全員で作る毎月のユニット目標や職員一人ひとりが自ら学ぶことを大切に個人目標を明示してケアの実践に繋げています。家族会や地域の協力のもと開催する夏祭りや敬老会などの行事等での利用者の笑顔、外出の楽しみ、リビングで過ごす穏やかなひととき、出来ることを手伝うことで得られる満足感など利用者が生き生きと暮らせるよう常に考え更なるサービスの質向上を目指している事業所です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/O6/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 28年 11月 18日	評価結果決定日	平成 28年 12月 6日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の下に月次のユニット目標を立て、管理者・職員ともに実践・評価を行い、職員一人一人が理念に沿って目的意識を持って業務に当たれるように取り組んでいます。	助け合い支えあう「互恵の精神」に沿い、全員で毎月ユニット目標を定め、また一人ひとりが具体的な個人目標を立て日々利用者に関わっている。リビングのボードに目標を明示して振り返りながら毎日の支援に就いている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域行事に参加、地区の青年部、Vrの協力を得てイベントを行っています。避難訓練は消防署・消防団の協力を得て行っています。地区のレク大会へチームで参加等など構成員としての役割を担っています。	クリーン作戦などを通して利用者の力を活かした地域貢献をしている。地区行事にも積極的に参加しながら、事業所行事には家族等にとどまらず地区の多くの人々が集い交流している。特に夏祭りの花火打ち上げや櫓を組んでの盆踊りは地区行事の一つになってきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験学習の受け入れ、高校や、社協主催の地域高齢者への認知症サポーター講座等に講師派遣を行っています。法人として総菜宅配事業で1300食以上/月を一人暮らしの方に提供し地域貢献をしています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	催事、避難訓練、事業の運営報告等で話し合いをしています。話し合いの中からサービス向上に生かせるよう取り組んでいます。	利用者の状況や事業所の現状等を報告し、様々なテーマのもと、地域との関わりや貢献、利用者や家族等との交流などについて意見交換を行いサービス向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	気軽に相談したり受けたりする関係となっています。行政もイベントへの職員派遣を行ったりしてくれるほか連携も行っています。	市担当者、地域包括支援センター職員、介護相談員がメンバーとして運営推進会議に出席し、意見交換しながら相談やアドバイスをもらっている。事業所行事にも参加してもらい協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束や施錠等を全く行わない介護を、日常的に実践しています。また、心理的虐待・人権侵害などの問題についても、日常的介護で気付かずに行ってしまような事例について、日々の具体的な事例を挙げて拘束をしない介護の必要性を説き実践しています。	研修を通して具体的な事例をもとに身体拘束をしない介護について学んでいる。職員一人ひとりが目標を立て、利用者を知りその方のお役に立ちたいとの思いで支援することが身体拘束ゼロにつながるとの認識を全員で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の防止チェック表による自己点検を行う事や、ユニット会議で話し合うなど虐待防止について徹底を図っています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は、実際に利用している人もおります。財産の承継等について、家族や関係者とも必要に応じて話し合ったりしています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談面接の時点から不安や疑問点に出来るようにして、契約締結や解約の際にも、理解・納得頂けるように対応しています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が組織されています。来所時に状況の報告や要望等も伺う様にしています。	家族等とのコミュニケーションを図るため交流の機会を数多く持ち、意見や要望を聞き取り、サービスに反映させている。敬老会や夏祭りなどのイベントでは家族会の意向を取り入れ協力してもらい開催している。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、事業所への意向調査を行い反映できるようにしています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価、業務評価のほか、相談助言に対応する職員を配置しています。処遇改善加算Ⅰの対応をして職員の給与水準や色々な労働環境の改善と向上を図っています。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	相談・指導スタッフを置いて、仕事上の悩みの相談やケアの指導を行っています。また、ユニット会議では具体的なケア方法の点検など月次の目標設定も含めてスキルアップできるよう図っています。	研修では管理者等の指導助言のもと、毎月個人目標を立て、取り組みの中でケアの確認を行いながらスキルアップを図っている。受けたい・勉強したいと希望する外部研修に派遣するなど、自ら学ぶ意欲を大切に職員育成に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	鶴岡市の事業者部会、県内外の事業所の連絡協議会に参加して、事業者間の交換実習に参加したりして質の向上を図っています。	同業者との研修会には積極的に参加して情報交換を行い、自事業所に活用している。交換実習の受け入れやレクリエーション交流会等への参加を通してネットワーク作りをしながらサービスの質向上に繋げている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談来所時の聞き取り、訪問して行う事前面談による要望や不安について傾聴し、フェースシートに記載して当初の関わりに活用し、本人の安心を確保できるように努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談来所時や訪問して行う面談で、要望や不安を傾聴し、丁寧に説明し納得してサービス利用できるようにしています。月次報告を行うほか随時面会時にも情報提供や要望等も受けるようにしています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来所相談や訪問面談では、支援の必要性をよく把握し、当事業所で出来ることと出来ないことを説明します。その中で、サービスの選択を相談者自ら選択できるように例を挙げて説明するようにしています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活するものとして、役割活動を支援しています。また、自己の重用感を充たすだけではなく、広く認められるような場を設けるようにしています。(敬老会での功労者表彰等)			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月次の状況報告や、必要に応じて電話、来所面会時に状況報告や相談したりして積極的に関わってもらえるようにしています。また、家族との絆を大切にするため、夏祭りや敬老会で交流の場を作っています。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の意向も踏まえながら、日時の制限をしないで自由な面会や訪問を受け入れています。美容院・床屋・医院等の利用で要望に応じて対応しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	随時の個々の状況に応じて、共同生活が楽しく過ごせるように、スタッフ間で話し合い配慮した支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に発生した手続きの支援や、必要とする情報提供を継続して行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えや家族の情報、日常の生活の観察やアセスメントから、言葉だけにとらわれない、本人本位の本質的な希望や意向を理解できるように指導や助言を繰り返し繰り返し行なうようにしています。	毎日の暮らしの中での言葉やしぐさから何を思い何を望んでいるかを把握し、朝のミーティングで話し合い共有している。パソコンに随時入力し記録することで、利用者の思いの変化に対応した支援が出来るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	色々な機会に家族、面会者から、また必要に応じて担当ケアマネージャー等から情報収集をし、利用者の意向の把握や行動の理解、入所経緯の把握に努め個別的に満足度向上を図るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コンピュータによる個別の逐次記録をし状態把握をします。それをもとにして、毎日のミーティングや情報の共有化を図るようにしています。そのほか、特に排泄や食事・水分摂取などの状況は別途記録して把握に努めるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の本質的なニーズを踏まえて、ケース担当者を中心に検討を行い、必要により本人・家族・看護師を入れて作成するようにしています。状況変化があれば、関係職種と協議し計画を変更するほか、その内容を具体的に指示するようにしています。	随時入力してある個別記録をもとに、本人の思いや意向を大切に捉え、また家族等や看護師の意見を取り入れ、ユニット会議において職員全員で検討している。今出来ることを伸ばし、運動機能の低下を防ぎ、喜び満足して生き生きと暮らせるよう利用者本位のプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者がケア目標を設定し、それに必要な観察や結果としてとしての気づきや工夫ができるよう、管理者は職員の教育育成を行うほか、生活記録の報告書提出時や必要と思われるときに指導助言、評価を行うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域住民や商業施設から理解・協力を得て、施設外へ積極的に出て行き、買い物や地域のスポーツ施設の利用、観光農園の利用などを支援し、今までの生活の継続や利用者の生活が豊かになるようにしています。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族等の希望を尊重した上で、緊急時の体制や家族の協力の可能性を検討し、医療機関の選定を行っています。協力医療機関の外にかかりつけ医の支援も合わせて行えるようにしています。</p>	<p>ほとんどの利用者が夜間も往診可能な協力医をかかりつけ医にしており、緊急時にも安心な体制が出来ている。定期通院時は職員が付き添い、体調等に变化があった時は看護師が同行して医師との連携を図り、家族等とも結果を共有している。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は随時・定時のバイタルチェックや観察で気付いたことを、看護師に伝え相談しています。管理者は看護師と情報交換して健康状態の把握に努め、個々の利用者の健康管理や適切な受診や看護を受けられるようにしています。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院医療機関に対しては施設での情報を提供するほか、協力医の支援を受けて、病院関係者との情報交換や家族との話し合いを随時行い入退院がスムーズにできるようにしています。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所相談時に家族の意向を伺い、事業所の方針を説明しています。また、重度化した場合や終末期の施設サービス提供の限界を示した上で、管理者は協力医・看護師・家族との話し合いにより方針を決定し、文書として作成しお互いに確認できるようにしています。</p>	<p>重度化した時は主治医の判断に従い、胃ろう造設や常時痰吸引の必要がなく医療連携と家族の協力が得られる場合は、看護師中心に看取り重度計画書を作成し、ユニットで話し合い、検討しながらチームで支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法を記載して掲示しています。初期対応ができるように各場面に応じての指導助言を繰り返して行うほか、防災訓練とあわせて救急救命措置の講習会やAEDの講習会を開催しています。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難誘導訓練を行うほか、近隣住民の協力が得られるよう、地区の消防団員を避難訓練に参加してもらうようにしています。また、地域の総会に参加し協力依頼や運営推進会議においても協力を呼びかけています。	春秋の防災訓練は消防署・消防団員が立ち会い出来る日曜日に実施している。後日振り返りにも参加してもらい、総評を得て次回に繋げている。また、震災発生時の心得や応急対策のポイント等を作成して机上訓練を行い、地震災害にも備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者は日常の具体的な事例を挙げて、利用者への会話のあり方や応接の仕方について指導するほか、人権尊重の必要性や、係り方を話し合い、人格尊重やプライバシー尊重が大切であることを説いています。	ケアの中で何気なくやっている事が不快な思いをさせていないか職員間で常に考え話し合う場を多く持ち、「快を増やして、不快を減らす」を念頭に、利用者の意思・尊厳を尊重した接遇に努めている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり関わる機会を設けています。また、「傾聴」の姿勢を常に念頭においき介護を行い、利用者の思いを引き出し、意志の表出が難しい利用者も考慮に入れて能力に応じた自己決定を促すよう支援しています。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など基本的な日課については、本人のペースを尊重しながら、個別的に時間の調整を行いサービス提供しています。役割活動やレク活動等を本人の希望や趣味も取り入れ、個別的な支援にも対応しています。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな服を着られるように支援したり、理髪や毛染め、化粧品の使用など本人の希望に沿った支援をしています。また、髭剃りや着衣の汚れのや着方にも気を配り、その人の能力に応じて、促したり手直しを支援したりしています。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	山菜取りや畑の作物を収穫し、下処理や漬物にしたりすることで、季節を感じたり思い出話をしたりで喜びを感じたり、皿や盛り付けに工夫して目でも楽しめるようにしています。能力に応じて食事の準備・配膳・後始末の家事もしてもらっています。	利用者の嗜好も取り入れた管理栄養士の献立で法人の給食センターがおかずを配食し、ごはんと味噌汁は事業所で調理している。皆で囲むおいしい食事は完食する姿にも表れ、食器拭きなどの手伝いでは仕事をしているという重用感に満ちている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の把握を行い、嚥下力や咀嚼能力・好みに応じて、食事形態や支援の方法を工夫し、必要に応じて特殊栄養食の提供やゼリー・粉寒天なども活用し栄養摂取や水分確保の支援に努めています。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨・うがいを促すほか、食後に口腔の衛生や状態を観察するようにして把握し口腔ケアを行なっています。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	極力オムツを使わない方針で、トイレ排泄をできるように一人ひとりの排泄パターンを把握し、それに合わせた排泄の支援を行うようにしています。	不穏な行動は排泄に関わるのが大きいと認識し、排泄パターンの把握や観察力をもってトイレでの排泄自立を支援している。さりげない声掛けや誘導で羞恥心や自尊心、不安に配慮した対応を心がけている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を全スタッフが共有し、食事の工夫や水分摂取、運動などのバランスを取りながら予防や解消に取り組んでいます。また、個々の状況を把握するため記録し、看護師と連携を取りながら必要な対応をとっています。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望を取り入れて、入浴しないことも含めて、工夫して対応しています。また、要望や必要により毎日の入浴や原則的には隔日の入浴実施となるようにしています。	入浴時には体調を考慮すると共に、長風呂や過介護に気をつけて介助している。また、拒否のある方は職員を替えてみたり、タイミングを図るなど工夫しながら、なるべく隔日の入浴ができるように努めている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	愛用の物を居室内に持ち込み、個々の生活習慣を継続できるように配慮し、空調や採光にも配慮して環境を整備しています。また、個々の生活ペースを尊重して、自由に休息が取れるように支援しています。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の服薬の目的や副作用等を理解できるように書類を整備し、利用者の毎日の状態把握と情報交換を行い、必要に応じて看護師への報告・相談を行うなどにより適切に対応できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日常生活の様子から個々のできる事を把握し、役割活動やレク活動に活かしています。特に毎年の敬老会のイベントの式典で、功労者表彰を行い感謝の意を表すほか、皆の励みになるようにしています。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な介護業務を担当しない職員を配置することで臨機応変に対応できるようにしており、個別的にも戸外に出かけられるよう支援しています。また、介護職員も個々の戸外での活動を支援しています。	気候の良い時季は事業所の敷地内の散歩や中庭の花の世話、野菜の収穫などで気分転換を図っている。体験できる軽スポーツレクリエーションへの参加は生き生きと楽しそうな表情が見られ、様々な外出行事の中でも喜ばれている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には現金を所持してもらい、菓子類や嗜好品の購入が自由にできるように支援しています。外出の機会には、買い物も自由に行えるように、現金を管理して頂いています。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員の支援を受けて自由に使えるようにしています。手紙のやり取りは利用者の希望に応じて、年賀状作成では職員の働きかけを行い、必要に応じて代筆などの支援も行っています。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光・空調、家具や調度品を生活感に配慮したものに、室内内外の装飾も季節感を取り入れ居心地の良い環境となるよう努めています。	冬期間は床暖房を施し、洗濯物を天井近くに吊るして動線を確保している。看護師の指導のもと感染症対策を万全に取り組み、館内を業務員の清掃で清潔保持している。また、季節に合わせた演出も大事にしている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、居室、中庭、玄関等を活用し、利用者が自分のペースを守りながらゆったりと生活できるように支援しています。また、近接事業所とも連携して自由に行き来できるようにしています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して、本人の馴染みの物を持ち込んで生活しています。写真や作品などを掲示する、季節の花の鉢植えや装飾を施して、親しみのある環境づくりに配慮しています。	身体機能に合わせてフローリングを畳敷きにしたり、重度の方の部屋を気配が感じとれる見守りし易い所になっている。体感を大切に室温や湿度は各室で調節して、夜間帯の職員3人体制など安心と安全な生活の場を提供している。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全体をバリアフリーにして、必要な箇所に手摺を設置するほか、転倒リスクが高い方には離床センサーを活用して、自立度を高めながら安全性を高める工夫をしています。		